

赤磐市過疎地域持続的発展計画（素案）に関するパブリックコメント（市民意見募集）の結果

意見募集期間 令和7年12月4日から令和7年12月24日まで

意見募集結果 16件（2名）

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
1	P.15 第3章 産業の振興 1.農業 (その対策)	<p>(1)推進体制の確立の最後に、「効率的な農業の推進を図る」と述べられているが、効率的な農業を行うには第一に耕作農地の規模の拡大が必須である。私は、その規模の拡大のためには現状の区(村落)単位で農業法人を行政が中心となって設立することが有効と考える。その理由は以下の通りである。</p> <p>①区単位であれば、最小約100ヘクタール規模の耕作農地を一つの農業法人で耕作するようになるので、採算性が確保できる。</p> <p>②区単位であれば、水の管理範囲も完結し、人間関係もまとまりがあるので、助け合いがしやすいと考える。</p> <p>③行政が中心となることで、行政への信頼から農地の統合がしやすくなる。民間企業の場合、信頼感の不足から統合がしにくくなると考える。</p> <p>今後10年間で後継者問題を解決する必要がありスピード感も重要。</p> <p>④農業に意欲のある若手を数人、農業法人の中心メンバーに選び、既存の高齢従事者が彼らを支援しながら農業法人を運営する。</p> <p>⑤農業機械や農機具は既存のものから必要なものを残し、その他は売却等して整理し、効率化を図る。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の農業振興関連施策の参考にさせていただきます。</p> <p>農業委員会等と連携した農地の集約化や、農地中間管理機構の活用により、効率的で安定的な農業経営の育成を推進します。</p>
2	P.15 第3章 産業の振興 1.農業	<p>(1)推進体制の確立の最後に、「効率的な農業の推進を図る」と述べられているが、効率的な農業を行うには、別の用紙で提案している農業法人の設立と共に、グリーン人材センターの設立も行い、その農業法人の支援を行うよ</p>	<p>いただいたご意見は、今後の農業支援及び担い手育成関連施策の参考にさせていただきます。</p>

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
	(その対策)	<p>うにすることが効率的な農業の推進や農業法人の経営の改善に資すると考える。その理由は下記の通りである。</p> <p>①農業には繁忙期があり、繁忙期には多数の人材が必要となる。その人材のニーズに柔軟に応えることができる。</p> <p>②農作業には田植え後に生える雑草の除去、あぜ道の草刈り、耕作放棄地の開墾など経営の収益にはあまり貢献しない仕事が多々ある。</p> <p>それらの仕事をグリーン人材センターで低コストでやってもらう。</p> <p>③グリーン人材センターには現役時代に様々な仕事をした人材が参加している。農業法人は一つの企業として様々な間接的業務があるので、それら業務の支援が期待できる。</p> <p>④グリーン人材センターには家族連れでも休日に参加できる。地域の多くの人々の参加により農業を地域社会全体で盛り上げる機運ができる。</p> <p>⑤懸念されている農業技術の伝承がしっかりとできるようになる。</p>	<p>幅広い人材の確保・育成を目指し、多様な就農ルートの強化や都市住民との交流活動の促進を図ります。</p>
3	<p>P.34 第6章 生活環境の整備 1.快適な環境整備 (5)環境保全 (その対策)</p>	<p>②項に、「リサイクルを中心としたゼロエミッション社会を目指す」と書かれている。その手段として、グリーン人材センターの設立を提案する。これを現状のシルバー人材センターに併設すれば設立の手間やコストが節減できる。現状、シルバー人材センターに厚生労働省からもらえている赤磐市が負担する費用の同額が得られる。このグリーン人材センターのゴミ削減・活用のための活動は下記のようなものである。①現在、各町内会毎に数カ所設置されているゴミ集積所は毎週2回のゴミ収集日以外は空いている。その空いている日に資源ゴミ収集日を定め資源ゴミを回収する。まずはモデル地区を定め試験的に実施する。また、大型ゴミやスプレー缶など廃棄困難なものを有料で回収する。②小中学校でゼロエミッションのための啓蒙活動</p>	<p>一般廃棄物処理基本計画に基づき、市民・事業者・行政が協力して、ごみの排出抑制の推進、適正な処理・処分の推進、市民協働の推進を行い持続可能な市を目指します。</p>

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
		<p>をする。③軽部小学校が廃校になった後、同校を各家庭から寄せられた中古品の展示・販売所にし、必要な中古品を安価に得られるようにする。④賞味期限切れの食品や規格外の売れない農産物を貧困家庭等に無料で配布するようにする。その配布の効率的な仕組みを確立する。⑤空き家を安価に解体できるよう、専門業者と協力して活動する。</p>	
4	<p>P.48 第9章 教育の振興 1.学校教育 (その対策)</p>	<p>①教育環境整備の推進の中の「イ」の項に、「プール施設においては、老朽化による破損箇所が毎年生じている」と書かれているが、このことは毎年、その修繕費用が発生していることを意味していると言える。</p> <p>そこで、私は、プール施設の利用については、既存の学校のプールを毎年、修繕費用を掛けながら修繕を行い水泳教育を行うよりも、夏休みを利用して、ふれあい公園のプールや民間のスイミングスクールのプールを使用して、すべての赤磐市の小中学生がまとまって水泳教育を受けるようにすれば、その修繕費用を節約できるのではないかと考える。ふれあい公園のプールは室内プールであり、更衣室等の付属設備も整備されているのでその面でのメリットもある。加えて、各校の水道代の節約が可能。</p> <p>水泳以外の体育の授業内容で、同様に、夏休みを利用して、一カ所で赤磐市の小中学生がまとまって授業を受けた方がメリットがあるものがあるのではないかと、検討を行う価値があるように考える。例えば、小学校の先生ではすべての教科を一人で教えねばならないが、体育の苦手な先生もいるであろう。そのような場合、まとめて体育の得意な、あるいは専門の指導者が教えることがメリットが生じると考える。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の学校施設管理及び教育環境整備関連施策の参考にさせていただきます。</p> <p>施設の公平性を確保しつつ、整備計画を進め、効率的な施設維持に努めます。</p>

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
5	P.48 第9章 教育の振興 1.学校教育 (その対策)	<p>①教育環境整備の推進の中の「ク」の項に、「市内には公立の高等学校等がないためほぼ全ての生徒等が市外へ通学しており、通学に要する交通費等の負担が大きいことから、経済的負担の格差を緩和し子育て環境の整備を図る」と書かれている。この問題を緩和、解決するため、私は山陽西小学校にオンライン(遠隔授業)高校を設立することを提案したい。その内容は下記の通りである。①山陽西小学校の空き教室を改修して利用する。そこを利用する意図は山陽団地の再活性化の為に教育環境の整備が第一と考えるからである。また、教室確保のための費用が安価となるからである。②オンライン高校の知名度はまだ低い、過疎地域での高校の存続策として注目を集めつつある。③週の半分(2~3日)は所属する市外の高校に通学し、残りの日をオンライン高校で授業を受ける形が良いと考える。④実技の授業などで受講できなかったものは夏休み等で補講する。⑤山陽団地のシニアなど誰でも受講できるようにして、世代間の交流を図り、地域社会全体で次世代を育てる風土を醸成する。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の教育振興及び若者支援関連施策の参考にさせていただきます。</p> <p>市外の高校へ通学する生徒の経済的負担の軽減を図るとともに、快適な就学環境の整備を継続します。</p>
6	P.7 第1章 基本的な事項 4.地域の持続的発展の基本方針 (1)地域の将来像	<p>「このまま推移すれば集落機能の維持が困難な状況が予想される。」としているが認識、表現が甘い。既に、地区人口が100人未満であったり、高齢化比率が50%はおろか60%、70%を超えている地区もある。</p> <p>計画のベースになる将来像を現実を直視して捉えないと、全ての計画が的外れになる。</p> <p>「既に集落機能の維持が困難になっている地域も表れている。」程度には改めないと、「集落の自治活動にも影響を及ぼしている(P.52)」との整合性が取れない。</p>	<p>ご指摘のとおり修正します。</p>

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
7	P.8 第1章 基本的な事項 5.地域の持続的発展のための基本目標	表7 基本目標は、第3次赤磐市総合計画の赤磐市全体の目標値が示されているが、過疎地域の計画であるならば、吉井、赤坂地域の目標数値を掲げるべきではないか。	基本目標には掲げていませんが、人口が減少し、地域社会の活力が低下した過疎地域について、本計画の期間を通じて事業を推進していきます。
8	P.27 第5章 交通施設の整備、交通手段の確保 1.交通施設の整備、交通手段の確保 (その対策)	交通施設の整備、交通手段の確保では、(5)バスの(現状と問題点)、(その対策)の中で「多様な交通手段の確保等」の記述があるが曖昧でよく分からない。第3次赤磐市総合計画でも「市民の様々な移動ニーズに応えるためには、鉄道やバスだけでなく他の移動手段の活用によって、市民の移動手段を確保していく必要があります」としている。考えられるのは公共ライドシェアや市民ボランティアによる移動支援であり、「多様な」の前に「公共ライドシェアや市民ボランティアによる移動支援等」を入れる。	ご指摘のとおり修正します。
9	P.42 第7章 子育て環境の確保、高齢者等の保健・福祉の向上及び増進 2.高齢者福祉 ⑤地域住民参加による支援体制の構築	「地域住民や各種団体などが一体となって支援する体制の整備に努める。」としているが、これは前回計画と全く同文であり、この間何も実行されていない。支援体制を築くには「災害時避難行動要支援者名簿」に倣って、「一人住まい高齢者名簿」を作成し、地区・町内会、社会福祉協議会や記載されている各種委員等と情報共有することが必須である。どのようにして整備するのかを具体的に記述すべきである。	地域包括ケアシステムの強化を図り、地域ボランティアや民生委員等と連携した見守り・援助体制の整備に努めます。

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
1 0	P.50 第9章 教育の振興 2.社会教育 ⑦旧笹岡小学校跡地	赤坂地域の3小学校統合により廃校になる旧笹岡小学校の活用については記述があるが、軽部小学校跡地については記述がない。 具体的な活用方法は未定でも、赤磐市の大切な施設であり、軽部小学校跡地についても「軽部地域だけでなく、赤磐市全体の市民にとって有意義な活用方法を検討する」程度の記載は入れるべき。	ご指摘のとおり修正します。
1 1	P.52 第10章 集落の整備 1.集落等の整備 (現状と問題点)	「将来の集落再編も含め」としているが、なぜ今実行しないのか。 既に、地区人口が100人を下回っている地区もある。これらの地区の10年後の人口を把握し(子供がいるか、Uターンするか等)、今から再編を進めていかなければ5年後では手遅れになる。 「地域の発展を図るため、集落再編を検討し、人的集積と」に改めるべき。	住民の意向を踏まえて進める事項であり、まずは地域の機運醸成を支援することが重要と考えます。その先に地域の総意が地域再編であるならば、その意向に添うということが「将来の集落再編も含め」に含まれている所です。
1 2	P.27 第5章 交通施設の整備、交通手段の確保 1.交通施設の整備、交通手段の確保 (5)バス	表4 市民バス利用状況に、1便当たり平均利用人数として0.9~1.4人と記載されている。これは平均してみれば、1台のマイクロバスにほぼ1人で乗っている訳で非常に非効率である。そこで、私としては、世界的に利用が広がっているライドシェアの導入を提案したい。 日本ではライドシェアはタクシー業界への影響を配慮して普及が非常に遅れているが、タクシー業界でも最近人手不足が深刻で運転手の確保が困難になってきているそうである。日本でも地方の各地で交通手段の確保が深刻な問題となってきているが、そろそろライドシェアの普及を進めるべきではないだろうか。行政としてもかなりの費用の削減につながると考える。まずは、地域をしぼって試験的に実施してみてもどうか。また、赤坂、吉井地域だけでなく、山陽地域の山陽団地内でも高齢化が進み、交通手段の問題が深刻化している。そちらも検討の対象に含めるべきと考える。	市内でも既にライドシェアの導入事例がありますが、引き続き効率的な運行を検討していきます。

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
1 3	P.43 第7章 子育て環境の確保、高齢者等の保健・福祉の向上及び増進 4.社会保険・介護保険 (2)介護保険	<p>(その対策)③介護サービスの充実と質の向上について大阪圏からの介護施設の誘致を提案したい。以前、報道で見聞した話だが、東京圏では、地価や諸物価の高騰や、介護人材の確保の困難から、介護施設を設立、経営する事業者が群馬や栃木に介護施設を移転するようになっているとのことである。私は今後、それと同様な状況に大阪圏もなってくると考える。大阪圏は今、国際的な都市となりつつあり、海外資本がマンション等に投資し、また海外からの人の流入もあり経済が活性化している。となると、コスト面や人材確保についても介護施設の設立、経営が東京圏同様、困難となると考える。加えて、大阪のような大都市圏では高齢者人口の増加も著しい。私は、吉井地域は群馬や栃木と同様に、地価や諸物価の安さや介護人材の確保のしやすさに加えて、大阪圏からの適度な距離にあることが好立地であると考えている。月に一度ほど、施設に入居した高齢者を週末に家族が訪問して、湯郷温泉で一泊して帰る。そのようなパターンが期待できる。また、地元の高齢者の入居施設としても利用できる。吉井地域の自然豊かな環境は入居する高齢者にとってやすらぐ環境ではないだろうか。</p>	<p>介護保険サービス量の調整を図りながら、今後の介護保険施設等整備に当たり参考にさせていただきます。</p>
1 4	P.41 第7章 子育て環境の確保、高齢者等の保健・福祉の向上及び増進 2.高齢者福祉 (その対策) ②生きがい対策の充実	<p>②生きがい対策の充実に「明るい活力ある長寿社会の実現に向け、高齢者が家庭・地域・企業など社会の各分野において長年培ってきた知識・技術・経験を活かし、生涯現役で生きがいの持てる高齢者の自立社会の構築を図る」と書かれている。この高齢者の生きがい対策としてグリーン人材センターを既存のシルバー人材センターに併設して設立することを提案したい。シルバー人材センターに対して、下記3点を改善してより多くの高齢者が参加しやすく、かつより生きがいを見出すことが可能な団体とすることを目指している。</p>	<p>高齢者が長年培った知識・技術を社会で活かせるよう関係機関との連携等に努めます。</p>

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
		<p>①シルバー人材センターでは草刈りや剪定など一定の技能が必要であるが、グリーン人材センターでは従事しながら技能を学ぶようにする。 私自身、我が家で草刈りや剪定をお願いしてみても、やれる自信がない。</p> <p>②シルバー人材センターより農業分野や環境分野の多様な業務に従事できるようにする。</p> <p>③従来の草刈りや剪定は個々の家庭に赴き単発的に行うものだが、農業分野や環境分野の業務は生産的かつ建設的、集積的なものである。また、単純作業ではなく、高齢者の経験を活かして創意工夫が求められるもの。</p>	
1 5	<p>P.20 第3章 産業の振興 5.観光開発 (1)観光資源の開発、活用</p>	<p>吉井地域の城山公園のお城であるが、今まで3回訪れたことがある。いずれも平日だったので、休日では異なるかも知れないが、訪問者は極めて少ない。立派な観光施設であるので、もっと活用すべきと考える。そこで、私は、そのお城をどこか宿泊業者に売却あるいは貸与して宿泊施設として運用することを提案したい。以前、テレビでどこのお城か忘れたが、そのようにしている例を視たからである。大名気分、殿様気分になれることが売りであった。吉井地区は湯郷温泉など県北の温泉エリアに近いので、それら温泉との兼ね合いで、ちょっとお城にも宿泊してみようと思う観光客もいるように考える。今までのような、ちょっとお城に上がり眺望を楽しみたいという方も受け入れるよう契約を結べば、そのような方々を排除することはない。ともかく、お城は眺めの良い場所にあり、建物もお城として立派なものである。現状はそれらを活かしきれていないように思う次第である。また、売却なり貸与できれば市役所へ収入が入る。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の観光開発・地域活性化関連施策の参考にさせていただきます。</p> <p>既存の観光資源のネットワーク化や、民間活力の導入による魅力ある観光地の形成・地域活性化を検討します</p>

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
16	P.34 第6章 生活環境の 整備 1.快適な環境整備 (5)環境保全 (その対策)	<p>②項に、「廃棄物の適正処理を進めるとともに、廃棄物の発生抑制と減量化、再資源化を地域社会の責任として考え、リサイクルを中心としたゼロエミッション社会の実現を目指す」と書かれている。この実現のため重要な項目の一つは「生ごみ」の適正処理、減量化、再資源化であると考え。その生ごみの定番的な処理方法としてコンポストの利用は知られているが、赤磐市ではあまり普及していないように思われる。赤磐市では桜が丘や山陽団地も含め広い庭がある住宅が多いのだから、コンポストの利用は推進されるべきと考える。ただ、課題はその使用や処理の手間に対する市民の協力であろう。その市民の協力を高め、生ごみ処理・活用を推進するには下記の事項が必要と考える。</p> <p>①私の別の意見書で述べているグリーン人材センターに専門部隊を設けて推進する。</p> <p>②モデル地区を定め、そこで手法を確立し、その手法を少しずつ周辺の地域に広げていく。</p> <p>③コンポストからできる堆肥の活用する場所を確保する。</p>	<p>一般廃棄物処理基本計画に基づき、市民・事業者・行政が協力して、ごみの排出抑制の推進、適正な処理・処分の推進、市民協働の推進を行い持続可能な市を目指します。</p>